

読書通信

第 9 号
発行人: amagata

源氏物語の影響を受けた近代小説

谷崎潤一郎「痴人の愛」と志賀直哉「暗夜行路」

源氏物語は世界最古の長編小説で、世界的にも評価の高い日本古典文学です。日本の作品の中で最も多い、20ヶ国以上の言語で翻訳されています。それ以降の古典文学だけでなく、近代小説にも多大な影響を与えています。

谷崎潤一郎「痴人の愛」

主人公河合譲治は、カフェのウェイトレスであったナオミを引き取り、育てる。これは、光源氏が紫の上を引き取り、育てたのと同様です。ともに、少女を理想の女性に養育しようとしたのです。念願通り紫の上は上品で聡明な美しい女性に成長し、光源氏が生涯最も愛した女性となりました。一方、ナオミは常識を逸脱した妖艶な女性へと成長し、譲治をも翻弄し、彼は堕ちていく。この作品以降、「ナオミ」という名前は妖婦の代名詞となりました。谷崎潤一郎は源氏物語の現代

語訳もしています。与謝野晶子、円地文子らとともに、その評価は高い。また、代表作の「細雪」にも源氏物語の影響が見られます。

志賀直哉「暗夜行路」

光源氏は義母藤壺と過ちを犯し、後の冷泉帝をもうける。そして、晩年光源氏の妻女三の宮は柏木と過ちを犯し、薫を産する。源氏物語では不義の子が因果応報のように、ストーリーに密接に関わっています。「暗夜行路」では主人公時任謙作は、祖父と母の不義の子であったことを知り、苦悩する。また、妻直子が従兄と過ちを犯したことで苦悩する。謙作は鳥取の大山に一人こもり、大自然の中で精神が清められてすべてを許す心境に達します。「暗夜行路」は志賀直哉にとって唯一の長編小説で、苦悩を克服した主人公の調和的世界を描いています。

「読書の記録」より 『葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」』

葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」は労働者の悲哀を描いたプロレタリア文学の代表作です。プロレタリア文学とは、大正時代から昭和の初め頃に、虐げられた労働者の直面する厳しい現実を描いたものです。

▽「私の恋人はセメントになりました」という言葉が、シヨッキングさと現実味があるようでない感じの表現で印象に残りました。(M・K)

▽少し悲しい話でした。でも、最後に、細君の大きな腹の中に七人目の子供を見たというのは、よく分かりませんでした。(S・M)

▽恋人がセメントと一緒になってしまったという、とても衝撃的な話でしたが、その中で恋人の手紙があり、その内容が衝撃的なものから、少し悲しい話へと変えているように思えました。(K・M)

▽最初のほうは本当に意味がわからなくて、鼻くそを取り出す話かと思いました。最後まで読んでみても、難しくてなんとなくしかわかりませんでした。(M・H)

▽映像で見るよりも、文だからこそ自分で想像する方が、とても恐いと思った。そんな処に使わないでと言った直後、どんな処にでも使ってくださいと言ったことから、感情が揺れているように感じた。(A・O)

**
**
**

□ クラス文庫より □

「スローカーフを、もう一球」



山際淳司

名勝負には感動する。そして、名勝負の裏には必ずドラマがある。スポーツノンフィクションの珠玉。

8 編の中で一番有名なものが、「江夏の21球」。1979 年近鉄バファローズ対広島カープの日本シリーズ、3 勝 3 敗で迎えた第 7 戦、9 回裏 4-3 で広島リード。ワシントン・フルベイスで近鉄逆転のチャンス。この場面で江夏がスクイズを外した一

球はあまりに有名。駆け引きがすごい。是非一読あれ。野球だけでなく、ボート、ボクシング、スカッシュ、棒高跳の話もあります。

《冒頭と結び》

近鉄バファローズの石渡茂選手は、今でもまだそんなはずがないと思っている。

(中略)

その直後、江夏はベンチに戻り、うずくまって涙を流したという。

クラス文庫、1 冊追加

岩崎夏海「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」

🍷 後記 🍷

私の故郷足助の香嵐溪のミジが 4 割程伐採されるらしい。老化と過密化の為、モミジの色づきが悪くなっているからだ。小学生の頃は毎年香嵐溪に行っていました。最近交通渋滞が嫌で訪れていません。近年、中馬のおひなさん、カタクリの花も有名になりました。中馬街道の古い町並みと共に、自然豊かな香嵐溪が末永く心癒やす場所として残ることを望みます。